

# 第1回 アクティブステージ研修

令和5年8月3日(木)

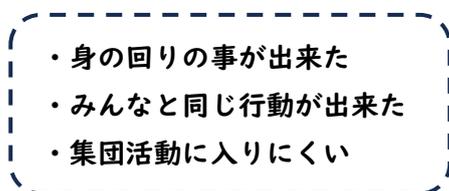
講演 「語り合い」で子どもの見方を広げる・深める」

講師 京都教育大学 准教授 佐川早季子氏

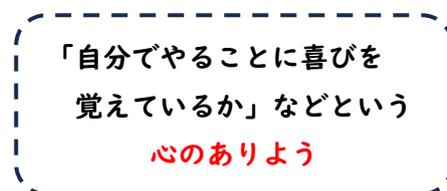
## 1. 子どもを見る力

- ・子どもの内面、育ちは見えにくい…

可視的な力や能力で成長や変化を捉えがち



保育・幼児教育での子どもの育ちとは



- ・**子どもを見る力**が育てば…

同年齢であってもそれぞれの生活経験や興味、関心などによって一人一人異なる幼児が生活する姿から捉えるものが見え、“今、経験していること” “今、必要な経験” は何かを捉えることで一人一人に応じた援助が出来る

## 2. 子どもの「事実」を見る

- ・**子どもを見る力**を育てるためには…

保育の中の具体的な場面を共有し、互いの見方について語り合い  
援助を「何のためにそうするのか」という目的に基づいて理解することが大切  
子どもの体験から自らの保育方法を問い直し、子どもの行為に気づく力をつけていく

- ・子どもの事実を拾い、それを根拠に語る

**POINT!**

- ◆対話(語り合い)の重要性→みんなの意見を聞く…自分の意見と違う意見からの気づき
- ◆ポジティブな面を意識して、引き算ではなく足し算で見る
- ◆表情、視線、手や指の動き、体の力の入り方などを含め具体的に細かく見る

## 3. グループワーク ～動画を見て子どもの事実を拾う～

- ・1回目…動画を見て感じたこと・気づいたことを話し合う
- ・2回目…視点を踏まえて動画を見て意見を出し合い、その中でタイトルを付ける

### ○入園して間もない女の子

熱で休み数日ぶりの登園で泣く姿

- ・保育者の言葉を聞いて最終的には気持ちの切り替えが自分で出来ていた
- ・遊びたくて、又は遊んでいる子どもたちの仲間に入りたくて泣いている？
- ・熱で久しぶりの登園だからどきどきしているのでは？

### ○水遊び(1歳児)

- ・水を目の前の袋に入れずフタに入れる  
→やってみようという気持ちかな
- ・桶に入った水と袋に入った水  
それぞれで触る感覚が違うことを楽しむ
- ・何度も何度も動かしてどこから水が出てくるか、もう一度水が出てくるか試している
- ・遊びながら視線で保育者に訴えている様子がある

### ○泥遊び(3歳児)

- ・一人の子どもの行動や言葉で保育者が反応したことに気づき真似をする子どもが続出した
- ・水をもって近くをウロウロしている子ども  
→気になっている、仲間に入りたい？
- ・遊びの中で偶然に出た動きや言葉を繰り返し使い遊んでいる
- ・音(聴覚)、柔らかさ(感触)、泥が落ちる様子(視覚)など自然と五感を使い楽しんでいる
- ・子どもの遊びを意味づける保育者の言葉がけ

### 4. 佐川先生の講評

- ・遊びを一言で終わらず様々な視点や目線で細かく見ることが大切
- ・遊びの中の多様な“おもしろさ”を言語化することでより遊びが深まる
- ・子どもの事実をもとに語ることの楽しさに正解はない
- ・子どもについて語り合うことで見えてきたことから子どもの見方が作られる(援助や環境構成が見えてくる)

### 5. 参加者の声や気づき

- ・子どもの気になるところに目が行きがちだが、足し算で見ることの大切さを学び、子どものプラスな面や素敵ところを引き出せるのは私たち保育者しかないと感じた。プラスな面に意識して目を向け、子ども達の特徴、性格をうまく捉えていきながら、関わりを深めていきたい。
- ・子どもの育ちに気付くだけでなく、それを記録したり言葉にして他者と共有したりすることで、新たな子どもの育ちに気付くことが出来るということを学んだ。
- ・グループで対話をする中で、いろいろな意見を聞くことができ、自分では気付かなかったことに目を向けられたり、違う視点で子どもの姿を理解したりすることができた。対話を通して、子どもについて職員間で情報共有をし、一緒に援助の方法を考えていくことの大切さを学んだ。

